

附属天王寺英語科 CAN-DO リストの作成

－自立した自由な学びを求めて－

いぬい まどか ・ かとう あきひろ こもり まひと たちばな なおき なかばやし ちえ
乾 まどか ・ 加藤 晃浩 ・ 小森 真人 ・ 立花 直樹 ・ 中林 千英

抄録：「CAN-DO リスト」という言葉が日本の英語教育の現場で使われるようになって久しい。しかしながら、各校で作成、活用が奨励されているにもかかわらず実態としては既存のリストを加工するにとどまり、効果的に活用されていないことが多い。高等学校においては新学習指導要領の全面実施が目前に迫る中、本校英語科では改めて高等学校3年間で育てたい生徒像を明らかにし、それを踏まえてそれぞれの教員が個性的な授業を展開できるよう、実態に即した独自の「CAN-DO リスト」の作成に取り組んだ。本校の指導方針や生徒の特徴を鑑み、4技能5領域の認知能力だけでなく、非認知能力を含む「Student Agency」をもリストに盛り込んだ点が特徴である。本稿は「附属天王寺英語科 CAN-DO リスト」が完成するまでの、紆余曲折を含めた作成過程と、そこから得られたものについての記録である。

キーワード：英語教育，CAN-DO，Student Agency，4技能5領域

I. はじめに

本校は「自主・自由・自立」を教育目標にしており、課外活動においても議論を重視する文化が根づいている。来年度から高等学校において新学習指導要領が全面実施されるにあたり、改めて主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、昨年度（令和3年度）の教育研究会では協同学習を取り入れた授業実践発表を行った。指導助言者和歌山大学江利川春雄教授に課題をご指摘いただいたほか、生徒の自主性や主体性をさらに引き出すためのポイントをご指導いただいた。現在では、英語科教員一人ひとりが、生徒が仲間と繋がりを深め合うことができるよう協同的な学びの場を授業内で創出するようになっている。

本校では自主性や主体性を教員が発揮する場面も多く、例えば教材や授業スタイルも個々の特性が活かせるよう各教員の裁量に任されている。その一方で、学年間で授業内容の関連性が弱く、各々の授業実践の蓄積が教科全体で共有されていないことが課題であった。そこで、各教員の授業実践をもとに、本校の特色を生かした英語教育の指針とすべく、今年度は「附属天王寺英語科 CAN-DO リスト」の完成をめざした。

II. 附属天王寺英語科 CAN-DO リスト作成の目的

CAN-DO リストを作成するにあたって、次の4点を目的とした

- 附属天王寺英語科として育てたい生徒像の共通認識を持つ
- 生徒の習熟の傾向や課題を明確にする
- 学年ごとの教員の縦の連携を強める
- 授業実践を共有し、研鑽し合うきっかけとする

Ⅲ. 作成の過程

（1）担当学年ごとにリスト記入

「附属天王寺英語科 CAN-DO リスト」の作成方針として、英語科教員それぞれが授業実践を持ち寄り、めざす生徒像や育てたい力の共有をし、リスト化することとした。CAN-DO リスト作成にあたっては、Microsoft 365 Education のサービスの一つである Microsoft Teams を最大限に活用した。新型コロナウイルス蔓延をきっかけに、2020年4月から大阪教育大学が Microsoft 社と包括契約をし、大学や附属学校の教職員がそのサービスを利用可能となっている。まずは Microsoft Teams 上で6/11～6/21の期間中に、担当学年ごとに共同作業をおこなった。附属天王寺中学校が作成した CAN-DO リストや他校での取り組みを参考にし、各教員が生徒に身につけさせたい知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を各学年4技能5領域にわけて表記した。それらの一覧を6/23の教科会議で共有し、内容や学年間の接続について議論した。

（2）Student Agency の導入

6/23の議論のなかで、協同学習の実践を踏まえ、知識・技能や思考・判断・表現力だけでなく学びに向かう力、人間性等もリストの中に入れるべきだという考えが生まれた。そこで、*OECD Future of Education and Skills 2030* に登場する概念を拝借し Student Agency という項目を設けることにした。エイジェンシーは、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（the capacity to set a goal, reflect and act responsibly to effect change）」と定義されている。自ら目標を設定し、それを実現するために努力するだけでなく、生徒が属する社会に対して責任を負うことが基盤である。他者や社会との関係性の中で育まれていくものである。これにより、本校が育成をめざす自主・自立の精神が3年間の英語教育の中でどのように育っていくのかが可視化できるようになった。7/27の教科会議では Student Agency の項目に絞って意見を出し合い、リストを整理した（図1）。10/26には Student Agency の項目が「国際性」「協同性」「学習ストラテジー」の3点に集約されるということを確認した。また、これらは高校3年間を通して高めたい資質であるという共通認識から、3年間をめざす姿をリストに記載することとした。

（3）学習指導要領に立ち返る

リストを共同編集するうえで、特に初期においては指導内容や学年接続に関する議論に重きを置いており、各教員が参照した資料が様々であったため、表記に統一感がなく読み手を意識したものではなかった。10/26の教科会議では、リストに盛り込む内容の方向性がある程度見えた段階で、表記に一貫性を持たせるため学習指導要領の文言を参照しまとめることとした。しかしながら、学習指導要領の表現を用いて編集したところ、一般化された抽象度の高い語彙で構成されたリストとなってしまう、本校の独自性や実践例が見えにくい、作成目的からは遠いものとなってしまった。

（4）軸の設定

本校の独自性や実践が色濃く反映され、それが読み取りやすいリストにするにはどうすればよいのか。これが編集作業後半の大きな課題であった。11/26の教科会では、大阪教育大学の加賀田哲也教授にご助言をいただき、『英語授業改善への提言』で示されている CAN-DO リストの各技能の構成要素を参考にリストを整理することとなった。やはりここでも、11/29～1/6と期間を設け、Microsoft Teams 上で担当学年ごとに共同作業をおこなった。整理し直した結果、それぞれの技能において本校英語科が重視する項目が2～3個ずつに絞られた。1/7の会議では、それらの項目について学年間の接続や表記の仕方を確認した。1/19には対面で、それ以降は Microsoft Teams 上で個々の表現の意図の再確認をしながら文言の整理をおこなった。

最後に、「附属天王寺英語科 CAN-DO リスト」に込められた思いが教員と生徒で共有できるよう、生徒たちの3年間の成長を植物の種が芽を出し空に向かって背を伸ばして花を咲かせる様子になぞらえてイラストや色で彩り、ついに今年度版「附属天王寺英語科 CAN-DO リスト」の完成に至った（図2）。

附属天王寺英語科 CAN-DO リスト

<ディプロマポリシー>

- ★ 自立的・主体的に考え、行動することができる生徒
- ★ 他者を理解し、尊重し、協力し合う人間関係を築ける生徒

<カリキュラムポリシー>

	Student Agency	Listening	Reading	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Writing
高3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学びを実社会と結びつけることができる。 ・学習スタイルや学びストラテジーを選択して効果的に使うことができる。 ・協同学習を通して、互いの学びを深め、発展させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な速さのニュースなどを聞いて、要点が理解できる。 ・非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていないにもかかわらず、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・800語程度の文章を読んで、大まかな内容が理解できる。 ・支援があれば、ニュース記事や論文から必要な情報を取り取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デバイスやサイズカクソンで、自分の考えを相手に伝えることができる。 ・相手の発言を受け止め、反応したり質問したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的なテーマについて、多様な考えを踏まえて、構成に気をつけながら自分の考えを書くことができる。 ・既習の語いや表現を用いて、場面に応じたスタイルや表現を使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みのあるトピックについて、既習語彙や表現を用いて、自分の意見を述べたり、内容まとめて書くことができる。
高2	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの中で学習成果を発表したり議論することができる。 ・自分に合った学習スタイルを選択することができる。 ・海外と自国文化の違いについて認識することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。 ・身近なトピックの短いラジオニュースなどを聞いて、要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。 ・平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的に関心のあるトピックについて、簡単な英語の表現を多様に用いて、会話を続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語彙や構文を用い、理由や具体例を取り入れながら、意見や考えを書いて表現することができる。
高1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習集団として良い聞き手をめざすことで自由に表現しやすい雰囲気を作成することができる。 ・洋書や海外の文化への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと話されれば、日常的な話題や関心のある話題について聞いて、その要点を理解することができる。 ・指示内容を理解し、行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背景知識や新出語彙を確認すれば、物語や説明文を読んで、センスグループごとに意味をつかみながらその概要を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや情報に対して簡単な質問をするなど、何とかがやり取りを続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたことを整理し、事前に準備をすれば、相手にその概要を話して伝え、それに対する自分の意見を簡潔に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語彙や構文を用い、理由や具体例を取り入れながら、意見や考えを書いて表現することができる。

附属天王寺英語科CAN-DOリスト(ver. 220119)

	Student Agency	聞くこと	読むこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	書くこと
高 3	① 国際性 ② 協同性 ③ 学習ストラテジー 	① 音声 ② 内容理解 ① 様々な英語の音声変化などを理解し、自然な速さの発話を理解することができる。 ② 社会的な話題についての話を聞いて、適宜視覚的支援を活用しながら、概要や要点をほぼ理解することができる。	① 音読 ② 内容理解 ③ リーディングストラテジー ① 音声変化やイントネーションをつけながら、自然な速さで流暢に読むことができる。 ② 辞書を活用しながら、社会的な話題についての文章や学術論文の概要や詳細を理解することができる。 ③ 段落の構成や展開を意識して内容を把握し、再話できるようにまとめることができる。	① 身近な話題から社会的な話題など ② コミュニケーションストラテジー ① 身近な話題から社会的な話題まで、相手の発言を受けて即興で自分の考えをほぼ適切に伝えることができる。 ② 相手の意図を受け止め、表現上の困難に遭遇しても既知語を上手く使い、流暢に会話を続けることができる。	① 発音 ② 事実情報 ③ 考えや気持ち、意見、主張 ① 自然な音声変化をつけながら発音することができる。 ② 聞いたり読んだりしたことを、論理的構成に気をつけながら要約して書くことができる。 ③ 社会的な話題について、事前に準備したメモを見れば、根拠や具体例を挙げながら、複数の観点から自分の意見を論理的に話すことができる。	① 事実情報 ② 考えや気持ち、意見、主張 ① 聞いたり読んだりしたことを、論理的構成に気をつけながら要約して書くことができる。 ② 社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら、複数の観点から自分の意見を論理的に書くことができる。
高 2	② 主体的・自律的に学び、互いを認め合い、協同して課題解決に向かうことで、自分と仲間の学びを高め合うことができる。 	① 音声変化などを理解し、自然な速さの発話を理解することができる。 ② 身近な話題や関心のある社会的な話題についての話を聞いて、概要や要点をほぼ理解することができる。	① 音変化やイントネーションに気をつけながら、ある程度流暢に読むことができる。 ② 身近な話題や関心のある社会的な話題についての文章を読み、概要をつかんだり必要な情報を読み取ったりすることができる。 ③ 段落の構成や展開を意識し、未知語の意味を推測しながら読むことができる。	① 身近な話題から社会的な話題まで、相手の発言を受けて即興で自分の考えをある程度適切に伝えることができる。 ② 対人関係によって表現を選択しながら、相手に意見を求めたり話題転換したりするなどのストラテジーを用いてやりとりを続けることができる。	① 発音、リズム、イントネーションに注意しながら、ある程度流暢に話すことができる。 ② 聞いたり読んだりしたことを、再話する、あるいは要約して話すことができる。 ③ 身近な話題や関心のある社会的な話題について、事前に準備したメモを見れば、根拠や具体例を挙げながら、自分の意見を論理的に注意して書くことができる。	① 聞いたり読んだりしたことを、要約して書くことができる。 ② 身近な話題や関心のある社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら、自分の意見を論理的に注意して書くことができる。
高 1	③ 学習スタイルに応じて、学習方法、内省する、他者と協力するなどの学習ストラテジーを選択して、効果的に使うことができる。 	① ゆっくりはつきりとした発話であれば、理解することができる。 ② 身近な話題や関心のある社会的な話題についての話を聞いて、概要や要点をある程度理解することができる。	① 音声変化やイントネーションを意識して読むことができる。 ② 身近な話題や関心のある社会的な話題についての文章を読み、話の展開やその全体像を想像することができる。	① 身近な話題や関心のある社会的な話題であれば、相手の発言を受けて、間違いを恐れず即興で自分の考えを表現することができる。 ② 相手の発言内容を確認したり、つなぎ言葉（gap fillers）を使ったりして、やりとりを続けることができる。	① 発音、リズム、イントネーションに注意しながら発音することができる。 ② 聞いたり読んだりしたことを、具体的に話すことができる。 ③ 身近な話題や関心のある社会的な話題について、事前に準備したメモを見れば、根拠や具体例を挙げながら、自分の意見を論理的に注意して書くことができる。	① 聞いたり読んだりしたことを、具体的に書くことができる。 ② 身近な話題や関心のある社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら、自分の意見を論理的に注意して書くことができる。



図3 CAN-DO リスト QRコード

QRコードからフルカラーのCAN-DOリスト（図3）をご覧いただき、種が芽を出し、空に向かって花を咲かせるイメージと3年間の生徒の成長とを重ね合わせてご想像いただけると幸甚である。

IV. 課題と次年度以降の展望

「附属天王寺英語科CAN-DOリスト」の作成過程において、4技能5領域のバランスや中学校や他学年との接続を意識し始めることができた点が大きな副産物である。しかし、リストの作成そのものが目的化してしまっては意味がない。次年度以降は、今年度完成したリストをもとに個々の教員が授業実践に取り組み、評価し、共有し合い、実情に合わせて「附属天王寺英語科CAN-DOリスト」を随時アップデートしていきたいと考えている。さらには、中高英語科教員で中3と高1の接続についても議論を深め、6年間を見通して附属天王寺の生徒の成長を見守っていけるような体制を強化していきたい。

謝辞

CAN-DOリスト作成にあたり、大阪教育大学加賀田哲也教授には度々ご指導を賜りました。この場をお借りして、心より感謝いたします。

参考文献

- OECD. (2019). *OECD Future of Education and Skills 2030, Conceptual learning framework. Concept notes: Student Agency for 2030*. Retrieved from http://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/Student_Agency_for_2030_concept_note.pdf
- 白井俊 (2021). 『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来』 ミネルヴァ書房.
- 文部科学省 (2019). 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』 開隆堂.
- 樋口忠彦・並松善秋・泉恵美子 ほか (2012). 『英語授業改善への提言』 教育出版.

Development of a CAN-DO List and Its Practical Application

— Aiming to Develop Students Into Independent and Creative Learners —

INUI Madoka ・ KATO Akihiro ・ KOMORI Mahito
TACHIBANA Naoki ・ NAKABAYASHI Chie

Abstract: It has been around a decade since the concept of a “CAN-DO list” was introduced in high school English education in Japan. Although each high school was encouraged to make and use their own CAN-DO lists, they were often prepared only by making minor changes to existing CAN-DO lists and not used in a concrete manner. Taking into account that the new Course of Study will be implemented in high schools in less than one year, our English department decided to reconsider our current instructional policy and create a CAN-DO list that reflects on our students’ capacities so that our instruction can consistently help our students develop their potential. This CAN-DO list is unique in that it refers not only to language skills but also to “Student Agency,” a key value at our school. This paper presents the process by which our CAN-DO list was developed and the results of our work.

Key Words: English education, CAN-DO list, Student Agency, Curriculum